

## 自己評価アンケート（2022年12月実施）の結果の分析

○「障害のある子もない子も、一人一人のありのままの姿を受け止め、健やかに成長することを願い、インクルーシブ保育を実施」(92.3%)、「子どもの生涯の基礎を培う保育園の役割の認識」(92.3%)、「むぎっこ保育園の理念や目的に基づいて、子どもが実体験し、自己肯定感を高められるように取り組んでいる」(76.9%)、「子ども一人ひとりの存在と人権の尊重」(76.9%)等の《保育の理念・保育観》の項目、○「保育指針のねらい及び内容が、達成できるような保育課程や保育計画となっている」(81.8%)の《保育計画・内容》の項目、○「献立に旬の食材を取り入れ、手作り給食の実施」(100%)、「食について保育士と給食担当者が意見交換の場を持ち、連携して食育活動を実施」(84.6%)等の《給食・食育》の項目、○「園内外の研修が計画的に実施されている」(84.6%)、「異年齢保育の特質が生かされた子ども集団づくりと、保育士連携が円滑に行われている」(76.9%)等の《保育園の役割分担・研修》の項目、○「職員の守秘義務の周知徹底」(100%)、「子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理」(83.3%)等《事務管理》の項目、○「保育中の体調への気配りや怪我等に対する配慮を職員間で確認」という《職員同士の関係》に関する項目は〈概ね達成〉の回答が多かった。

他方、「保育園の地域の子育て支援をする、社会的役割の意識」(53.8%)、「子どもの意欲を引き出し、発達に必要な経験が得られるような環境構成が十分工夫されている」(50.0%)、「月・週・日案などが実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたか、という点から自分の保育を評価・反省している」(45.5%)、「研修に参加したり専門書を読むなどして自己研鑽している」(53.8%)、「園生活の子どもの様子を保護者や地域社会に積極的に伝えている」(58.3%)の項目は、「できてはいるが、十分でない」の回答が目立つ。

特に、「自分の保育の評価・反省」や「自己研鑽」については、保育業務の多忙さから十分な時間がとれないことが考えられる。また、「地域の子育て支援」や「地域社会との交流」については、コロナ禍では困難であったが、「親子教室の実施」「卒園児との異年齢交流」「地域の高齢者との交流」などの行事を今後実施していきたい。

さらに、むぎっこ保育園の「異年齢保育」への理解はある程度進んでいる反面、「発達に必要な経験が得られるような環境構成」という課題が指摘されている。自由記述欄にも「遊びが広げられるような環境設定が必要」とある。異年齢保育は、子どもに直接かかわり指示するのではなく、子ども理解が最も大切にされている。その理解をもとにどんな環境を構成するかは、保育者に求められている。これが意識化されている点は重要である。今後深めて行きたい。

保育計画・指導計画づくりに関しては、実践及びその振り返りと計画をどう関係づけていくか検討する必要がある。計画づくりのための時間を勤務時間内にどう確保するのも課題である。関連して、年間最低2回（前期・後期）の保育総括会議を開催する方向を模索したい。

自由記述欄からは、「職員の話し合う時間がなかなかとれない」＜職員集団＞「忙しくてなかなか研修できない」＜職員研修＞、職員の負担を減らすために職員を増やす必要がある（人手不足）」＜人材確保＞、「保護者と話す機会が少ない」＜保護者との交流＞、「地域の方々との交流が少ない」＜地域との交流＞、「職務分担表が不明確」＜管理運営＞等の課題が出されていた。

## 2022年度 職員自己評価 アンケート集計

- 評価 ① a = おおむね達成できている / b = できてはいるが、十分でない / c = できていない  
 ② 「評価の根拠・改善方法」欄に自由に記述する。

N=13

回答率 = 86.6%

### 1. 保育の理念・保育観

項 目		職員による評価			
		a	b	c	評価の根拠・改善方法
1	保育士、職員全員の一人一人が、むぎっこ保育園の理念や目的に基づいて、子どもが実体験し、自己肯定感を高められるように取り組んでいます。	76.9%	23.1%	0.0%	みなさんそれぞれ出来ることを精一杯されているから。
2	保育士一人一人が自己評価を行い、その問題解決のために向上心をもって取り組んでいます。	66.7%	25.0%	8.3%	
3	すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重しています。	76.9%	23.1%	0.0%	
4	児童福祉法の理念に基づいて子どもの生活と健全な発達を保障することが、保育園の重要な使命であると理解しています。	69.2%	30.8%	0.0%	意識しているがこの現状では、なかなか出来ない。 いくら保育園で子どものために頑張っても、保護者の協力が得られない家庭の子どもの健全な発達を保障することは難しい。
5	今日の保育園には、入園している子どもの保育だけでなくひろく地域の子育て支援をする、社会的役割があることを意識しています。	53.8%	38.5%	7.7%	
6	障害のある子もない子も、一人一人のありのままの姿を受け止め、健やかに成長することを願い、インクルーシブ保育を実施しています。	92.3%	7.7%	0.0%	
7	保育園の保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識しています。	92.3%	7.7%	0.0%	

### 2. 保育計画・指導計画・保育内容

項 目		職員による評価			
		a	b	c	評価の根拠・改善方法
1	保育指針のねらい及び内容が、達成できるような保育過程や保育計画になっています。	81.8%	18.2%	0.0%	
2	保育計画に基づき、子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月・週・日案などを作成しています。	70.0%	30.0%	0.0%	
3	子どもの意欲を引き出し、発達に必要な経験が得られるような環境構成が十分工夫されています。	50.0%	50.0%	0.0%	子どもは自ら遊んでいくが、もっと遊びが広げられるよう環境設定が必要と感じる。

4	職員間で、「子ども理解」を深め、お互いの考えについて対話を通して理解し合って、保育しています。	61.5%	30.8%	7.7%	○職員の話し合う時間がなかなかとれていないように感じる ○子どもの様子について職員間で話している。
5	月・週・日案などが実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたか、という点から自分の保育を評価・反省しています。	45.5%	36.4%	18.2%	○パートで週に2回ということもあり、月週日案を元に評価、反省をしていませんでした。 ○振り返ることがあまりなかった。
6	食について保育士と給食担当者が意見交換の場を持ち、連携して食育活動をしています。	84.6%	15.4%	0.0%	○給食室の先生方と話し合う時間が作れば嬉しい何かあった時に常勤職員が安心して休める体制をつくってあげてほしい ○検食簿に記録はするが、給食担当者と話をすることはほとんどなかった。意見交換の場は大切だと思った。
7	献立に旬の食材を取り入れ、ほぼ100%を手作りしています。	83.3%	16.7%	0.0%	

### 3. 保育園の職員構成・役割分担・研修

1	園長や主任の園務分掌がはっきりとしていて、それぞれの仕事を責任持って行っています。	75.0%	8.3%	16.7%	職務分担表が必要なのではないかと思う 責任者に園の全ての仕事を把握して、役割分担をおこなっていきたいと思っています
2	異年齢保育の特質が活かされた子ども集団づくりが進められ、各お部屋の保育士連携が円滑に行われています。	76.9%	23.1%	0.0%	先生方の話し合う時間が必要だと思う
3	危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられています。	61.5%	38.5%	0.0%	いろいろな場面を想定した訓練がおこなわれています。 お昼すぎからはもう少し職員がいればと思う
4	保育中の体調への気配りや怪我等に対する配慮を職員間で絶えず確認し合っています。	53.8%	38.5%	7.7%	熱っぽい子どもやケガをした子どもがいれば数人で状態を確認し、話し合って最善の対処をしようとしています。
5	園内外の研修は、計画的に実施されています。	84.6%	15.4%	0.0%	会議が大切なのは重々わかっていますが、職員会議を20時までにしてほしい

6	保育に関わる様々な知識や技能の向上に努め、悩みや疑問を解決するため、研修に参加したり専門書を読むなどして自己研鑽しています。	53.8%	30.8%	15.4%	日々が余裕なく過ぎていき気持ちはあるがなかなか学びに取り組めない
---	--	-------	-------	-------	----------------------------------

#### 4. 事務管理・運用

項 目		職員による評価			
		a	b	c	評価の根拠・改善方法
1	子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理しています。	83.3%	16.7%	0.0%	
2	職員に園内で知りえた事柄に対しての守秘義務を周知徹底しています。	100.0%	0.0%	0.0%	
3	帳簿類は、適切に記載し、整理保管しています。	75.0%	25.0%	0.0%	
4	定期的（毎日）に施設設備・遊具等の安全点検をしています。	61.5%	30.8%	7.7%	
5	園運営が円滑に行われるように適切に予算を執行しています。	75.0%	25.0%	0.0%	今後もっと予算など勉強していきたい

#### 5. 子育て支援

項 目		職員による評価			
		a	b	c	評価の根拠・改善方法
1	保護者が安心して子育てができるよう支援しています。	75.0%	25.0%	0.0%	保護者さんと話す機会をもっともてるようにしたい
2	子どもの心身の発達や育児不安等について、気軽に相談できるように育児相談や専門機関との連携を取りながら行っています。	81.8%	18.2%	0.0%	
3	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めています。	81.8%	18.2%	0.0%	
4	一時預かりで保護者の子育て相談に応じています。	81.8%	18.2%	0.0%	
5	園生活の子どもの様子を保護者や地域社会に積極的に伝えています。	58.3%	25.0%	16.7%	地域の方との交流をもっとしていきたい

～以上、各項目評価してきて、全体的評価をひと言（\*上記項目以外のことでも記入していただいて結構です）～

○日々先生方は、1日の保育時間が足りないなか、委員会を重ねて危険なことや保健のこと、防災のこと等話し合いをされて前向きな活動をされています。私も気持ちを引き締めて前進していきたいと思います。
○子どもの姿の共有や保育者同士の連携がとても重要だが、話し合いがなかなか出来ていない。時間を作り、子どもたちの姿を元により保育の質を高めていきたい。
○私はまだパートとして働き出して4か月であり、入る回数も少ないですが、保育者の先生方が高い専門性を持ってかつ連携をとって日々子ども達と関わっておられ、そんなお忙しい中をぬって環境整備や研修、様々な訓練の実施、書き物作り物など、本当にすごいです。私も私に出来ることを頑張ります。

○人手不足で、職員一人一人が本来の自分の役割を果たせてないと感じる。

○自分もまだまだわからないことが多いのでご迷惑をおかけして申し訳ないです

もっと頑張ります

○責任者の方々も一緒に予算や補助金など取り組んでいただけると心強いです

○先生方の負担をどうしたら少しでも軽くできるのか園長先生、主任を中心に考えていきたいです

○職員が誰も辞めて欲しくないです

○勤務態勢が厳しい中でも、子どもたちのことを考えながら一人一人ができることを頑張っています。

○2～5歳までの異年齢保育が3年目になり、少しずつ異年齢保育の良さが出てきたと思う。子どもたちを引き続き見ていく中で、子どもたちとの関係や特性もわかり、職員間で課題を話すことも多かった。3年目となり、むぎっこなりの異年齢保育は”暮らし”と考えられるようになった。行事も改めて考え直したり、保育者間で考えを出し合い実行できた年でもあったと思う。